

氏名	小学部5学年 組	作成日	平成11年 月 日	作成者
長期目標	○自分の意思をはっきり表示する。 ○人や物との関わりを広める。	短期目標	○指示された課題に取り組める。 ○自分から着替えや排泄の行動が記こせる。	
親の願い(進級等)	○基本的な生活習慣を身につけてほしい。 ○自分のことは自分でできるようにしてほしい。			
	実 態	目 標 (年間)	指導内容・方法	評 価
日常生活	●声掛けにより自分から着替えに取り掛かるようになる場面が見られるようになってきたが、手元を見ないためうまく着られず途中であきらめてしまうことが多い。 ●排泄はトイレで行うことを理解している。 ●失禁が多く、また、大便失禁の場合は、手でこねて遊ぶことがある。 ●おかしな味の着替えが好きで嫌いなものは残しがちであるが、少しずつ食べる様子が見られるようになってきた。 ●好きな物は他人の物まで手をだしてしまうことがある。	●声掛けにより着替えに取り掛かり、手元を見ながら着替えができる。 ●定時排便を身につける。 ●好きな物と食べ比べる。 ●自分の物と他人の物を区別して食事ができる。	●言葉とともに具体物を示し一緒にスポンに手を掛けるなどきっかけを与えようとする。 ●時間を定めてトイレに行くよう促すようにする。 ●おかしな味を食べてしまいがちなので、おかしな味を半分取り、ご飯と交互に食べるよう促す。 ●食べ終わったら、「ごちそうさま」のあいさつとともにエプロンを脱ぎ、終わったことを知らせようとする。 ●誰の物かを知らせる。	
生活単元学習	●指示は動作による誘導で理解していることが多い。 ●「リ」「ア」などの発音の他に「イーヤ」などの言葉も聞かれることがある。	●簡単な指示を理解し行動する。	●日常生活を通して、言葉とともに具体物や動作を示すことにより理解できるようにし、やるべきことを一緒に行うようにする。	
	●自分の物、他人の物の区別が難しい。	●同じ物を集めることができる。	●遊具や絵画の片付けを通して同じ物を集めたり、まとめたときの経験をさせ、形の違いを認識できるようにする。	
養護 訓練	●自分の嫌なことをされても抵抗しなかったことが多かったが、嫌なことは拒否する場面が見られるようになってきた。	●してほしいことや嫌なことを感情や動作などで伝えることができる。	●感情や動作、言葉などで表現できるように教師と一緒に行うようにする。 ●伝わったときには称賛する。	

図2 個別の指導計画(小学部)

- (一) 児童生徒との共感や保護者の願いを大切にすること。
- (二) 小・中・高の各学部をつなぐを意識した長期目標を設定すること。

### 六 研究の成果及び今後の課題

- (一) 個別の指導計画作成の実際
  - 個別の指導計画は、各学部や学級の特性を生かして内容を検討し作成したので、それぞれ様式は若干異なる。ここでは、小学部の指導計画を紹介する。(図2)
- (二) 研究のまとめ
  - 初年度は、各学部単位で、複数

の教員による実態把握の方法を心に研究に取り組んだ。その中で、総合状況関連図を作成することにより、児童生徒のそれぞれの課題の相互の関連性や優先指導課題が浮き彫りになるとともに、指導すべき場面や指導内容・方法がより明確になった。

二年次の今年度は、さらに各学部で内容を精査しながら検討を行い、すべての児童生徒の個別の指導計画を作成した。これまでの研究の主な成果をまとめると以下のようになる。

- ① 複数の指導者による集団思考により指導計画を作成したので、指導者間の共通理解が図られたこと。
- ② 児童生徒一人一人の指導目標が明確になり、より具体的な指導が進められたこと。
- ③ 個別の指導計画をもとに小・中・高等部の一貫性がより一層図られ、見通しをもった指導を進めることができたこと。

### (三) 今後の課題

個別の指導計画を活用し、個に応じた指導内容・方法を充実させるためには、授業での実践的な取り組みが必要となる。

教材・教具や提示の仕方の工夫については、例えば、何気なくならでできることが意図的にできるようになったり、容器の中のイチゴを数えるとき、数えやすいように直線上に自分で並べ替えて数えられるようになれば、課題解決の能力が育まれてきたといえる。このような視点で教材・教具の工夫を行い、個に応じた指導内容・方法を実践を通して探っていききたい。また、指導形態については、題

材や児童生徒の実態により、一斉指導を基本とする指導形態の中で、どのように個別指導や能力別グループ指導を導入すれば、より効果があるかを探ることが必要であるが、これについては何より指導者間の共通理解が重要であり、今後の大きな課題の一つである。

評価については、児童生徒一人一人がもっている能力を最大限に発揮し、新しい事柄を学習する期待感やできるようにしてきたことが分かる成就感や充実感がある。そのような支援を行うことが必要である。その中で、授業の様々な場面を通して個別に評価する方法を調べていくことが三年次の研究の課題になる。

### 七 おわりに

個別の指導計画は、作成すれば終わりではなく、どのように活用するかが重要である。今後は研究授業等を通して個別の指導計画を見直し、さらに充実した内容のものを作成するとともに具体的な場面での評価や支援の個別化に努めていきたい。